

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて				
ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等		
3年間かけて常用漢字の大体を読めるようになり、また学年別漢字配当表に示されている漢字を文や文章の中で使えるようになる。		自分の伝えたいことを、表現や構成を工夫しながら正確に伝えられる文章が書けるようになる。		
	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から書き言葉で文章として考えを表現したり説明したりする習慣が乏しく、基本的な語彙の習得、表現や文章構成に課題がある生徒が多い。ア 小学校で既習の漢字や、日常的によく使う漢字などの定着に課題がある生徒が一定数いる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに考えを書かせたり、単元ごとに学習内容を振り返らせたりなどして日頃から書く機会を増やしていく。ア 授業内で漢字小テストを定期的実施する。また定期考査や休み明けテストへの学習方法を見直させ、苦手な生徒も目標をもって取り組める環境を作る。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ア 前期～後期 イ 前期～後期 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 作文の内容に具体性をもたせ、相手が理解できる内容を書くことに課題がある。ア 漢字の読みについては問題がないが、書く能力については定着に課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識と目的意識を明確にし、推敲を通して文章をより良くする場を設定する。ア 年間を通して週一度漢字テストを実施、学期に一度漢字コンクールを行う。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ア 前期～後期 イ 前期～後期 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 作文の内容に具体性をもたせ、相手が理解できる内容を書くことに課題がある。ア 漢字の読みについては問題がないが、書く能力については定着に課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 200字作文、批評文を書く活動の中で相手意識と目的意識を踏まえ、構成について交流を行う。ア 週に一度漢字テストを実施し、必要な生徒には再テストや追加課題を課す。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ア 後期 イ 前期～後期 	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<ul style="list-style-type: none"> 教材に対する興味や関心をもたせるための活動に活用する。【重点：個別】 互いの考えを共有し、助言し合う活動に活用する。【重点：協働】 発表（個人・グループ）において資料の提示等に活用する。【重点：協働】 情報の収集をしたうえで文章を書いてまとめる授業に活用する。【重点：個別】 	<ul style="list-style-type: none"> 授業ごとに授業プリントを作成する。 単元や授業の最初に目標や授業の流れについて説明する。 振り返りの記述を共有することでより深い学びへと促す。 評価については最初の授業で説明する。

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

<input type="checkbox"/> ア 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> イ 思考力、判断力、表現力等
社会的事象の基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得するとともに、それらを社会に見られる諸問題の解決のために生きて働く「概念的な知識」に昇華させることができる。	「社会的な見方・考え方」を働かせながら、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想(選択・判断)したりすることができる。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	①基礎的・基本的な知識の定着、技能の習得に課題がある。 <input type="checkbox"/> ア ②多面的・多角的に考察しようとしているが、「社会的な見方・考え方」を生かして適切に表現することには課題がある。 <input type="checkbox"/> イ	①授業開始、単元末に基礎的な用語の復習を行う。 問題集を活用して用語の定着を図る。資料を読み取った過程を説明し合う時間を取る。 ②視点や方法を明示した学習課題を示し、文章で表現させる単元づくりを行うとともに、その内容の添削を繰り返し行っていく。	①各授業 各単元開始時 ②各授業 各単元末	
第2学年	①基礎的・基本的な知識はおおむね定着しているが、新しく学ぶ内容を既習事項と関連させることには課題がある。 <input type="checkbox"/> ア ②多面的・多角的な考察ができるようになったが、適切に表現することに課題がある。 <input type="checkbox"/> イ	①授業開始、単元開始時に基礎的な用語の復習を行う。また、授業プリントを既習事項と比較できる構成にする。 ②段階的に学習内容のまとめ方や発表方法を変えていき、様々な発表活動を行っていく。	①各授業 ②各単元1回以上	
第3学年	①基礎的・基本的な知識や技能はおおむね定着しているが、「概念的な知識」を身に付けている生徒が少ない。 <input type="checkbox"/> ア ②複数の資料や情報を関連付けて考察することに課題がある。 <input type="checkbox"/> イ	①社会的事象に対して、社会科の3分野を意識させながら授業を進めていく。 ②複数の資料を活用させるレポートの課題を出し、個に合わせて学習に取り組ませる。	①各授業 ②各学期	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- ・資料の読み取りの際に、画面共有を行うなど、ポイントを分かりやすく提示する。【重点:個別】
- ・ロイロノートを活用し、意見等を提出させ、全体共有に活用する。また、その意見を踏まえて、個人の振り返りにつなげる。【重点:協働】
- ・ロイロノートを活用して課題提出を行うとともに、評価やフィードバックをオンライン上で行う。【重点:個別】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- ・「持続可能な社会の担い手としてどのような考え方が必要か。自分自身に何ができそうか。」ということを書き記させたり、話し合わせたりする。
- ・実生活との関連を考えさせたり、学習内容を踏まえて社会に見られる諸課題の解決に向けた構想を行わせたりする。
- ・「振り返りシート」を活用し、学習を通じた自身の変化に気付かせる。例えば、単元の導入で学習課題(「問い」)を提示して回答を予想させたり、各項の授業後に回答の深まり具合を確かめたりする。

数学科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

<input type="checkbox"/> ア 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> イ 思考力、判断力、表現力等
・数学的な技能(計算・作図・表現など)の確実な定着	・根拠を基に筋道を立てて考え、適切に表現する力の育成

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・正負の数や文字式の基本的な計算ができる生徒が多い。<input type="checkbox"/> ア ・式や図がかけても、自分の考えを言葉で分かりやすく説明することができない。<input type="checkbox"/> イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週小テストを実施し、そのための学習に取り組んで結果を振り返らせることで定着を図る。 ・途中の式や答えを確認するだけでなく、なぜそう考えたのかを、できるだけ数学の用語を使いながら説明させ、適切に表現する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期から継続 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算問題などの知識が定着しない生徒がいる。<input type="checkbox"/> ア ・文章問題や、文字で表現された数量を問われることに苦手意識がある生徒が多い。<input type="checkbox"/> イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時にプリントを使って既習事項の問題を解かせ、繰り返し演習することで定着を図る。 ・演習の時間に、答えだけではなく、途中式や考え方も書くように指導、確認し、論理的な思考を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時 ・1学期から継続 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な内容理解が十分でない生徒がいる。<input type="checkbox"/> ア ・文章問題や発展的な課題への苦手意識が強く、考えを数学的に表現することが難しい生徒が多い。<input type="checkbox"/> イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に既習事項の復習、小テストを行い、基本的な知識・技能の定着を図る。 ・文章問題を考えるときに最初から文字で考えるのではなく、具体的な数字で考えられるようにする。 ・説明し合う活動を通して、問題を多角的にとらえ、的確な表現方法を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時 ・習熟の程度に応じて ・单元ごとに複数回 	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- ・タブレット端末を活用し、生徒のノートやワークシートを映し、課題解決の過程を全体で共有する。それを個で考えるときのヒントとして役立てたり、授業のねらいに沿って、生徒の考えから練り上げ、考察を深めたりするときに用いる。【重点:協働】
- ・教科書にある D マークコンテンツを活用し、グラフや図形を動かすなどして事象を視覚的に捉え、考察する。【重点:個別】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- ・自力解決の前に既習事項との関連を意識させた見通しの時間をとる。
- ・授業の最初に簡単な小テストを行い、前回までの学習内容を振り返る。単元の終わりや定期考査後に、学習内容の振り返りを記入することで、自分で学んだことを整理する時間をとる。

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

<input type="checkbox"/> ア 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> イ 思考力、判断力、表現力等
・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解する。 ・科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	・自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察・実験を行い、得られた結果を分析して解釈する。 ・科学的根拠を基に論理的に表現することができる。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・科学的な現象を理解するために必要な知識・技能についての理解が生徒によって差がある。 <input type="checkbox"/> ア ・科学的根拠を基に思考・表現する力に課題がある。 <input checked="" type="checkbox"/> イ	・既習事項について、定期的に振り返りを行い、繰り返し基本的な概念や原理の定着を促す。 ・実験結果を基に考察できることを話し合い、自分の考えを表現する場や他者の考えを聞く場を設定する。また、単元末に科学的根拠を基に思考・表現する課題を設定する。	・随時 ・実験後、単元末	
第2学年	・基本的な概念や原理・法則について、理解している生徒も多いが、継続的な定着が難しい生徒も多い。 <input type="checkbox"/> ア ・科学的根拠を基に思考・表現する力に課題がある。 <input checked="" type="checkbox"/> イ	・毎時間初めに前時の振り返りを行い、基本的な概念や原理を繰り返し復習し、定着を図る。 ・実験結果や事象についても、図やイメージを用いて自分の考えを表現する場や他者の考えを聞く場を設定することで、多角的多面的に捉える視点を養う。	・随時 ・実験後、単元末	
第3学年	・知識・技能については定着している生徒が多いが、思考・判断・表現の力に差が見られる。 <input type="checkbox"/> ア ・基礎的な学習内容と結び付け、自然の事物現象について科学的根拠を基に論理的に思考・表現することに課題がある。 <input checked="" type="checkbox"/> イ	・生徒同士の教え合いを取り入れ、分かりやすく簡潔にまとめさせることで思考・判断・表現力を育む。 ・自然の事物現象においての課題を共有し、実験の見通しを確認・共有する。また、事後に生徒が科学的根拠を基に論理的に説明や表現する機会を設定する。	・随時 ・実験前後	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- | | |
|-----|---|
| 1 年 | インターネットや動画視聴に活用、実験結果等の記録共有【重点：協働】
パフォーマンステストへの活用 |
| 2 年 | インターネットや動画視聴に活用、実験結果等の記録共有【重点：協働】 |
| 3 年 | インターネットや動画視聴に活用、実験結果等の記録共有、班活動での発表や教え合い、レポート作成など【重点：協働】 |

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- | | |
|-----|--|
| 1 年 | 身の回りの事象から学習内容に結び付け、学習意欲を育む
定期テストの振り返り |
| 2 年 | 身近な事象と学習内容を結び付け学習意欲を育む。学習内容についてアウトプットする機会を設け、定着を図る。定期テストの振り返り。 |
| 3 年 | 振り返りシートの実施(随時)、定期テストの振り返り、章ごとに班内で学習内容の教え合い |

音楽科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

☐ ア 知識及び技能☒ イ 思考力、判断力、表現力等

創意工夫を生かした表現で歌唱するために必要な発声、言葉の発音、身体
の使い方などの技能を身に付け、積極的に歌唱する力を身に付ける。

曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さ
や美しさを味わって聴くことができるようにする

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	授業中に投げかけた問いに関してすぐに答え ることができ、積極的に取り組む姿勢は見ら れる。 しかし、学んだことや、自分の考えをまとめな おし、他者に伝えることに課題がある。 <input type="checkbox"/> イ	自分の考えをロイロノートのカードにメモを し、考えを文字化することで考えを整理でき るような場を作る。	単元ごと	
第2学年	授業中の発言も多く、とても意欲的に取り組 むことができ、他者と意見交換をすることが できる。しかし、学んだことを踏まえて、自分 の考えをまとめることに課題がある。 <input type="checkbox"/> イ	意見交換したことを忘れないようにメモでき るようワークシートやロイロノートを活用してい く。	単元ごと	
第3学年	授業に対して積極的に取り組む姿勢が見られ る。しかし、歌唱の際、全体的に声量が出にく いことがある。 <input type="checkbox"/> ア	歌唱の前に、発声練習をしたり、身体を動かす活 動を入れたりして声量を上げることに力を入れ る。また、どのようにしたら声が出やすくなるの かを伝える。	毎時	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一
台端末等 ICT の効果的な活用について

- 1 年生：自分の抱いた気づきや想いをタブレットで素早くメモをしながら取り組む
【重点：個別】
- 2 年生：タブレットを用いて毎時間振り返りを行うことで授業内での自分の課題に気
付かせる。【重点：個別】
- 3 年生：自分の意見をグループで共有するときに、タブレットの共有機能を使いなが
ら意見交換を行う。【重点：協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学び
に向かう力」の育成に向けた取組について

振り返りカードを毎回記入させることで、成果や改善点を生徒自ら考え、
次時につなげる。次回頑張りたいことを振り返りに書くことで、次回の授
業をどう取り組んでいくかの見通しをもてるようにする。

美術科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

<input type="checkbox"/> ア 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> イ 思考力、判断力、表現力等
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	・主題を生み出し豊かに発想し、構想を練ったり、美術に対する見方や感じ方を深めたりしている。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的なデッサンやモチーフの観察がおおむねできている。<input type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ ・基礎的な構成の技能や発想力に課題がある。<input type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ ・知識・理解について個人差が見られる。<input type="checkbox"/> ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもった制作ができるように、工程を示したプリントを準備、配布する。<input type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ ・タブレット端末を用いた授業を行う。<input type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ ・視聴覚教材やプリントを準備する。<input type="checkbox"/> ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の初め ・適宜 ・定期考査前 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・発想や構想面での個人差が大きい。<input type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ ・基礎的な表現をベースにした応用的な表現がおおむねできている。<input type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ ・知識・理解について個人差が見られる。<input type="checkbox"/> ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもった制作ができるように、工程を示したプリントを準備、配布する。<input type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ ・タブレット端末を用いて、発想や構想を深める。<input type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ ・視聴覚教材やプリントを準備する。<input type="checkbox"/> ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の初め ・適宜 ・定期考査前 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・表現内容と技能がおおむねできている。<input type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ ・個々の思考力に差が見られる。<input type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ ・知識・理解について個人差が見られる。<input type="checkbox"/> ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもった制作ができるように、工程を示したプリントを準備、配布する。<input type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ ・タブレット端末を用いて、発想や構想を深める。<input type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ ・視聴覚教材やプリントを準備する。<input type="checkbox"/> ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の初め ・適宜 ・定期考査前 	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
(全学年) 課題の発想や構想の段階で、自分のイメージを具現化することに活用したり、具体的に表現したいモチーフを調べたりするために活用する 【重点:個別】	<ul style="list-style-type: none"> ・作品のコンセプトを明確にして、自己の作品を振り返る。 ・作品展の相互鑑賞により、発想や表現方法を学ぶ。

保健体育科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
<input type="checkbox"/> 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> 思考力、判断力、表現力等
健康・安全についての理解を深め、生涯にわたり健康を保持増進し、運動技能を習得させ、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。	主体的・協働的な学習活動を通して、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る方法を探究する力を育成する。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<input type="checkbox"/> 積極的に運動に親しむことはできるが知識や技能の習得につがっていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 対話的、協働的な学習を苦手と感じている生徒が多く、協働的な学びが課題である。	<input type="checkbox"/> 学習カードやタブレット端末を用いて運動に必要な知識を習得し技能の向上につなげさせる。 <input checked="" type="checkbox"/> ペアなど少人数グループでの学習を中心にを行い、互いに教え合う時間を作り、対話的な場面を増やし学習意欲を高める。	年間を通じてどの運動領域についても行っていく。	
第2学年	<input type="checkbox"/> 体力や運動能力に優れている生徒がいる一方で、苦手と感じている生徒も多い。今後は生活習慣の変化によって、体力が低下しないように運動習慣を継続させていく力を付けたい。 <input checked="" type="checkbox"/> 積極的に課題解決を図ろうとする意識を高めることが課題である。	<input type="checkbox"/> 体カテストの結果から自己の体力を理解させ、目標を立てさせ、必要な運動を継続して行わせ体力の向上を図る。 <input checked="" type="checkbox"/> 学習カードやタブレット端末を活用して自己の運動課題を見つけ、解決方法を探究する学習をグループで行い対話的で深い学びにしていく。	年間を通じてどの運動領域についても行っていく。	
第3学年	<input type="checkbox"/> 運動が苦手だと感じている生徒が多く、苦手意識を持っていると感じる。 <input checked="" type="checkbox"/> 対話的な活動に対する力にやや課題があり、個々での活動が中心となっている。	<input type="checkbox"/> タブレット端末を活用して、自身の動きを分析的に確認し、学習を進めるようにする。 <input checked="" type="checkbox"/> 少人数のグループ活動から互いに助言し合うなど対話的な学習の場面を増やす。	年間を通じてどの運動領域についても行っていく。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について <ul style="list-style-type: none"> ・習得すべき知能や技能について常に調べられるようにする。(重点:個別) ・ペアワークやグループ学習において、お互いの動きを撮影し、分析的に意見を出し合う活動を行う。(重点:協働) ・ロイロノートを活用し、各自の課題を提出させる。(重点:個別) 	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを使用したグループ学習の取組により、仲間と考えや気持ちを共有させ、互いに助言し合い、その内容を記録しながら学習を振り返り、「対話的で深い学び」を促す。
--	--

科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を相互に関連付け、生活や社会の中から課題を見出すことができる。	生活から見出した課題について解決策を構想し、実践を通して解決に向かおうとしている。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ● 技能に対する理解と習得に課題がある生徒が多い。ア ● 自ら考える姿勢が弱く、解決策を構想するに至っていない生徒がみられる。イ 特に言語化に課題があり、具体物をイメージする力が不足傾向にある。イ	<ul style="list-style-type: none"> ● 師範を有効的に取り入れ、技能の習得に見通しを持たせる。ア ● 生徒の同士の学び合いの活動を支援し、効率的に技能の習得を目指す。ア 工夫された実践は、できる限り共有し、積極的に取り入れるように支援する。イ	毎時間ア、イ	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ● 技能に対する理解と習得に課題がある生徒が多い。ア ● 自ら考える姿勢が弱く、解決策を構想するに至っていない生徒がみられる。イ 特に言語化に課題があり、具体物をイメージする力が不足傾向にある。イ	<ul style="list-style-type: none"> ● 師範を有効的に取り入れ、技能の習得に見通しを持たせる。ア ● 生徒の同士の学び合いの活動を支援し、効率的に技能の習得を目指す。ア 工夫された実践は、できる限り共有し、積極的に取り入れるように支援する。イ	毎時間ア、イ	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ● 技能に対する理解と習得に課題がある生徒が多い。ア ● 自ら考える姿勢が弱く、解決策を構想するに至っていない生徒がみられる。イ 特に言語化に課題があり、具体物をイメージする力が不足傾向にある。イ	<ul style="list-style-type: none"> ● 師範を有効的に取り入れ、技能の習得に見通しを持たせる。ア ● 生徒の同士の学び合いの活動を支援し、効率的に技能の習得を目指す。ア 工夫された実践は、できる限り共有し、積極的に取り入れるように支援する。イ	毎時間ア、イ	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年 タブレット端末を使用して、実践を評価・改善する。 2年 タブレット端末を使用して、実践を評価・改善する。 3年 タブレット端末を使用して、実践を評価・改善する。 【重点：個別】	1年 授業始めの「めあて」の明確化と終末の振り返りの実施 2年 授業始めの「めあて」の明確化と終末の振り返りの実施 3年 授業始めの「めあて」の明確化と終末の振り返りの実施

英語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

<input checked="" type="checkbox"/> ア 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> イ 思考力、判断力、表現力等
コミュニケーションの中で、基本的な語彙や文構造を活用する力や、自らの考えを相手に伝えるための「発信力」を養う。	聞くことや読むことを通じて得た知識を、自らの体験や考えと結び付けながら活用する、「話す力」「書く力」を養う。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	つづりを覚えることや文構造の定着にはまだ課題がある。また、自己表現の際に、既習内容を活用することにも課題がある。	<input checked="" type="checkbox"/> ア 授業の帯活動で毎回会話練習を実施する。学習した語句や文法表現の反復練習を行う。ペアで学び合うことで語彙や文構造の定着を図る。 <input checked="" type="checkbox"/> イ 自己表現の際に、教科書本文やリスニング音声で使われている表現を活用するよう指導する。端末で表現を調べるのではなく、既習表現を使うように促す。自己の学習状況に応じて、語句を変えたり順序立てて文を組み合わせたりするように指導する。	・ペア活動は毎時実施。 ・单元ごと理解度を確認する。	
第2学年	ペア活動に積極的に取り組み、互いに教え合うことで学習効果を感じている生徒が多い。音声を用いた活動にも熱心に取り組んでいる。一方で、動詞の活用や文構造の定着に課題がある。また、英語の学習に苦手意識をもっている生徒は少なくない。授業や活動の達成目標を細かく分け、どの生徒も達成感を得られるようにする必要がある。	<input checked="" type="checkbox"/> ア 音読練習を十分に行い、発音と綴りを一致させる。また、問題演習や会話練習を通して、学習した語句や文法表現の定着を図る。モデルとなる音声や会話を聞く際に、デジタル教科書を活用することで学習の個別最適化を図る。 <input checked="" type="checkbox"/> イ 自己表現の際に、新しく学習した語句や文法表現を積極的に活用するよう指導する。教科書本文やスピーキング活動で使われていた文を参考にしながら、自己の伝えたい内容に合わせて、語句を変えたり、順序立てて文を組み合わせたりするように指導する。	授業ごとに課題を設定し、実施する。 月ごとに話すことでの目標を設定し、月ごとに達成度を確認するため、スピーキングテストを実施する。	
第3学年	会話練習や音読などの音声を用いた活動やペアで互いに教え合うことに学習効果を感じている生徒が多い。学習した語彙や文法表現の定着には課題がある。そのため、学習した語彙や文法をどのように活用すれば、自分が言いたいことを表すことができるか分からない生徒が多い。また、文同士のつながりを読み取ることやまとまりのある文章を書くことにも課題がある。	ペア活動、グループ活動を取り入れることで、不得意な生徒も仲間に支えられながら学習できるよう工夫する。 <input checked="" type="checkbox"/> ア 学習した語彙や文法表現の定着を図るために、読み上げる英文の意味を考えながら音読する活動を継続して行う。また、音読した英文を活用して、異なる意味の英文を作る練習も継続して行う。 <input checked="" type="checkbox"/> イ 読む活動では、代名詞や接続詞に注目させ、文や段落の内容のつながりを読み取ることができるように指導する。話す活動では、リテリング活動を通してまとまりのある英文を組み立てて話す練習を行う。また、学習した語彙や文法表現を積極的に使うこと、接続詞を使って複数の文で話すよう指導する。話す活動の後に、話した内容を書くことで、文構造や文章構成を確かめさせる。	・授業ごとに課題を提示し、継続した指導を行う。 ・单元ごとに課題を設定する。单元末に確認テストやパフォーマンステストを実施し、到達度を確認する。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- ・作成した課題をロイロノートで提出させ、個別の指導及び全体へのフィードバックを行う。
【重点:協働】
- ・毎回の授業で振り返りシートをロイロノートのアンケートで提出させる。【重点:個別】
- ・授業での内容をスライドにして、全体で配信して視覚的に授業の流れを分かりやすくする。
【重点:個別】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 1年 単元の初めに学習計画を示し、見通しと目標をもたせている。毎授業後と単元の終わりに振り返りを行い、生徒が学習内容と理解の度を整理できるようにしている。
- 2年 授業の初めに学習目標とプランを示し、生徒が見通しと目標をもつようにしている。毎授業後と単元テスト後に振り返りを行い、生徒が学習内容と理解の度を整理するようにしている。
- 3年 毎授業後と単元テスト後に振り返りを行い、生徒が学習内容と理解の度を整理するようにしている。